

## 1 民官連携による「は一とふる農園よこすか」の開設及び、包括連携協定の締結について

### 市長

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。本日は、日建リース工業株式会社代表取締役副社長の関山正都様をはじめ、日建リース工業株式会社の皆さまにお越しいただき、両者の協力による新たな取り組みについて発表をさせていただきます。

現在、横須賀市では福祉施策の一環として障害者雇用の促進に注力しておりますが、この度、横須賀市と日建リース工業株式会社は、連携して、障害のある方の雇用の場である「は一とふる農園よこすか」を令和7年度に横須賀市内に開設することになりました。そして、その運営を通じて地域福祉の向上、共生社会の推進、地域経済の発展に寄与することを目的とする包括連携協定を締結したことをお知らせいたします。

今回、浦賀の地に誕生する「は一とふる農園よこすか」は、60名近い障害のある方が農業を通じて社会参加と経済的な自立を目指す場所となります。特に処遇面においては、通常の場合、月に2万円から8万円の収入がほとんどの中で、今回、は一とふる農園においては、働く方にもよりますが、月に15万円ほどの収入を得ることができます。こうした施設は、これまで市内にはなく、まさに、障害のある方々が社会参加や将来への希望を育むための重要な基盤として、御本人だけでなく、御家族にとっても大きな喜びや安心をもたらすものと期待をしています。

また、農園の開設にあたっては、障害のある方をサポートする方々を地域から雇用いただくことや、収穫した農産物について、近隣の飲食店や食料品店への出荷をお考えいただいていることから、地域経済の活性化にも期待をしているところです。

横須賀市と日建リース工業株式会社は、この「は一とふる農園よこすか」の開設が障害のある方々の人生を豊かにする機会となり、また、新たな交流拠点として地域に根ざし、地域福祉への理解につながる開かれた農園となるよう、協力して取り組んでまいります。「は一とふる農園よこすか」でお勤めになるお一人おひとりの活躍は、私が目指す「誰も一人にさせないまち」の実現に向けた力強い一歩になるものと確信しています。

この横須賀、浦賀の地で、生き生きと仕事に取り組む姿を拝見できる日が来ることを楽しみにしています。本日は誠にありがとうございました。私からの挨拶は、以上になります。

### 日建リース工業株式会社 関山代表取締役副社長

ただいま、司会の方より御紹介あずかりました日建リース工業の関山と申します。皆様、本日は大変お忙しい中このようにお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。また、このような機会をいただきまして、横須賀市の上地市長をはじめ、市議会の皆様、地域の皆様、そして市役所の関係者の皆様、心より御礼を申し上げる次第でございます。誠にありがとうございます。

本日、このように皆様に向けて、は一とふる農園よこすかの開業を御報告できること、そして、包括連携協定の締結という節目を迎えることができることは、私たち日建リース工業にとっても、非常に感慨深いことでございます。今回の取り組みのきっかけは、横須賀市のたった一人のお母様のお声でありました。横須賀にも、ぜひ、は一とふる農園を作ってほしい、そう願ってくださった思いに、私たちは強く心を動かされました。そう決意して実に5年の歳月が流れました。何度も壁にぶつかりながらも私たちの思いを受け止めてくださった市議会の方々、地域の方々、そして市役所の皆様の御尽力があって本日を迎えることができました。

私たちは、は一とふる農園が単なる農業の場ではなく、障害のある方々が地域で生き生きと働き、自分らしく輝ける場、そして地域全体に繋がる場であると信じております。皆様のお手元に配らせていただいたベビーリーフも、障害のある方が作られたものでございます。ぜひ、地域の飲食店に出荷して、障害のある方が、地域に貢献していると実感していただくことが我々の目標です。ここにいらっしゃる横須賀の皆様と共に、この農園を、誰も取り残さない社会の実現に向けた希望の場所として育てていければと私どもは願っております。本日はお時間をいただきまして、本当にありがとうございました。

具体的な事業の詳細につきましては、弊社事業開発部大森より説明させていただきたいと思っております。ありがとうございます。

## 日建リース工業株式会社 大森事業開発部長

皆さんこんにちは。ただいま御紹介いただきました日建リース工業の大森でございます。事業の内容をこちらの画面を使いながら御説明をさせていただきます。よろしくお願いたします。

まず、私たち日建リース工業というのはどのような会社なのかについてお話をさせていただければと思います。日本で最初に建設業界向けの仮設レンタルを開始したリーディングカンパニーで、いわゆる足場と言われているものをレンタルしているのが私どもの創業また主業であります。そして、こちらは日本でナンバーワンのシェアをいただいているという状況でございます。その他、ハウス・備品事業、物流機器事業、介護事業ということで、全て主業はレンタルで事業を進めてきました。

また、設立当初の約60年前より、環境と資源をテーマに合理的な使用価値を提供していこうということを会社の根本的な価値として進めてきた会社でございます。では、なぜ、このレンタル屋さんだった日建リース工業が、障害者農園を作ったのかについて、少しお話をさせていただければと思います。

この画面の左側、建設工場の足場が組まれています。その真ん中に、門型のものがあるかと思いません。こちらの足場というものが、近年、現場の安全をもっともっと改善していこうということで、新しいタイプのものに切り替えなければならないということがあり、このような門型の足場を大量に処分しなければならなくなりました。スクラップにして鉄になり、また別の鉄に生まれ変わるといっても、当然、循環型ではあるかと思いますが、こういったものをただ溶かすのではなく、何か社会課題の解決に使えないか、ということで色々な事業を検討したところ、農業分野では耕作放棄地、食料自給率の問題、農家の方の高齢化という問題がありました。そこで、ビニールハウスを作ることや、また、高床式の砂栽培の仕組みを開発していったところ、これは障害者の方の作業にすごく適しているのではないかとということで、障害者農園に着目していったという流れになっております。

右側の写真、分かりにくいかもしれませんが、工事現場で使われている足場でビニールハウスの中に高床になっている作業台を作っております。

2017年度に、まず埼玉県飯能市で、農業を通じて障害者が働くは一とふる農園事業を開始しております。こちらは砂栽培で、また自動冠水装置というものを使いながら、土曜日・日曜日でも休むことができ、生活と仕事のバランスを保つことができます。そして、雨の日でも晴れの日でも環境に左右されません。今まで働くことができなかった障害者の皆さんが、活躍できる農園を作りました。

こちらは、は一とふる農園のビジョンです。障害者の方の働く喜びとやりがいの創造、これが何しろ第一の理念です。明るい太陽の下で育て育った野菜、そしてそれをおいしいと言って食べていただける消費者の方、何よりも、それを持って帰って御家族、お母さんに渡したとき、「おいしいね」と言ってもらえることが本当に幸せだと仰っております。このように、ものを作っていくということの喜びを通じて、人間的にも、経済的にも自立をして、そして企業様の障害者雇用率も達成していこうと進めております。

は一とふる農園の事業は、砂で栽培する仕組みのものです。簡単で安全という大きなメリットがあります。1番危険な道具は、おそらくハサミではないかと思えます。大きな機具は使いません。非常に安全で、そして汚れることもない、そのような農業になっております。は一とふる農園は、ベビーリーフの栽培からスタートいたします。色々な作物を研究しましたが、ベビーリーフは、毎日、種植えをし、間引きをし、収穫をします。これにより、毎日の作業を、昨日の成果を、一週間前の作業を、今日、確認できます。初めて農業に取り組む方が、日々、自分の仕事をチェックできるので、非常にやりやすい農業だと考えています。例えば、1年かけて収穫する果実のようなものを行いますと、最初の作業が失敗しているのか、途中が失敗しているのか、1年かけてしか分かりません。軌道に乗るのに2年も3年もかかってしまいます。そこで、まず、ベビーリーフからはじめて、しっかり農業の基礎を学びます。

は一とふる農園のベビーリーフは、女性の一口のサイズに合わせて、測って収穫をしており、どんなレストランに持ち込んでも、こんなきれいなベビーリーフを見たことがないというお話をいただきます。完全リーフ体のベビーリーフを提供し、非常に高付加価値で高いお値段で買っていただいております。このベビーリーフは、230店舗のスーパーマーケット、近隣のレストランでたくさん使っていただいております。

は一とふる農園の展開の実績です。障害者の就労者は現在353名、そして、今後、723名まで拡大する計画があります。管理者として働かれている方が、現在75名おりますが、今後105名くらいまで伸びるだろうと予想しています。定着率は、1年間で97%の方が仕事を継続していただいております。

は一とふる農園よこすかは、7番目の農園として計画をしております。埼玉県飯能市・神奈川県愛川町・埼玉県熊谷市・宮城県名取市、埼玉県蓮田市、埼玉県狭山市、そして、それに続く第7番目の農園として横須賀が開園予定でございます。

それでは、今回の横須賀市の農園を簡単に御説明させていただきたいと思えます。こちらが事業予定地です。京浜急行電鉄の浦賀駅から徒歩16分、浦賀火葬場跡地に、は一とふる農園よこすかを開設させていただきます。大きく三つのエリアに分かれております。第1エリア・第2エリア・第3エリアです。順次、第1エリアから工事を着工し、開園して参ります。ビニールハウスを2棟・3棟・4棟という形で建てて参ります。運営時間は8時半から夕方17時半です。障害者の方は9時半から16時半まで働いていただきます。また、先ほどの話のとおり、土曜日・日曜日・祝日はお休みです。従業員の数は、専従の社員として5名を配置して、障害者の方の就労者は約60名です。そして近隣地域に働きたいという方がいらっしゃれば、ぜひ、管理者として10名を、また、週3日も働きたいということであれば、もう少し人数も増えるかなと思えます。

横須賀市様とは本日、包括連携協定を締結させていただきました。今回の協定の目的は、は一とふる農園よこすかの運営を通じて、障害のある方と地域住民の就労機会を創出するとともに、農園を活用した各種施策に、日建リース工業と横須賀市が連携して取り組むことで、地域の経済の発展、および地域の福祉向上、共生社会の推進に寄与することを目的としております。障害者の未来を作ることをご共通目標化していこう、という思いで、この協定を結んでおります。

具体的な取り組みとしましては、雇用創出については、この農園を開設することによって、多くの方が働いていただけるだろうと考えています。そして啓発に関しましては、飲食店やスーパーで、「は一とふる農園の野菜がここで売っている」と認知していただくこと、また食べることによって感じていただける、そのようなところを目指していきたいと思えます。そして理解の促進につきましては、近隣の小・中学校の生徒さんを対象の農園見学、市民を対象にした農園体験等のイベントを実施したいと考えています。

まだまだ、やりたいことがたくさんありまして、横須賀市様とは多くの相談をさせていただいております。障害者の方々が、横須賀市に生まれて、また住んでいてよかった、そんな思いをしていただけるようにしっかり取り組み、共に歩んでいきたいなと思っております。

この取り組みを通じて、私たち日建リース工業は社会課題の解決を自社の存在価値にしていこうと

いうスローガンを達成するための取り組みをして参りたいと思っております。皆様の御支援、御指導のほどよろしく願いいたします。以上でございます。

## ■質疑応答

### 記者

働き方次第では、通常の2倍以上の月15万円の収入が得られるとのことでした。具体的な障害者の募集方法と具体的な出荷・販売方法を詳しく教えてください。

### 日建リース工業株式会社 大森事業開発部長

御質問ありがとうございました。まず1点目の障害者の方の募集方法につきましては、昨今 SNS が非常に発展しております。私どもの農園のお問い合わせも、ほとんど SNS を通じていただいています。中々、働く意思が生まれなかった方が SNS を見て、ちょっと問い合わせしてみよう、見に行ってみようというきっかけで働いている方も多数いらっしゃいます。まず SNS を中心として募集を行いたいと考えています。また、近隣の就労移行支援事業所さんや、障害者福祉事業者さんの紹介、また働いてみたいという方にお越しいただくことや、特別支援学校の卒業生が働きたいということでお越しいただくというケースがございます。今回は、横須賀市のお母さん方に御期待いただいていると伺っていますので、そういった方に御紹介いただけるかなとも思っております。

2点目は、野菜の販売方法の御質問であったと思います。まずは、近隣のレストランさんまた、道の駅にある直売所のようなところに農園の方から、しっかりアプローチをして、毎日配達をしながら販売をしております。また、大手スーパーに対しては、配送センターさんから各店舗に運んでもらいます。そのように野菜を販売しております。

### 記者

障害者の就労者約60人というのは、第1から第3エリアの総数ということで良いのでしょうか。

### 日建リース工業株式会社 大森事業開発部長

はい、そのとおりです。

### 記者

今のところ、何人くらい確保の目途があるのでしょうか。

### 日建リース工業株式会社 大森事業開発部長

今の段階ですとまだ2、3人くらいです。

### 記者

これからということですね。

### 日建リース工業株式会社 大森事業開発部長

今回の記者会見の後に、しっかりと各事業者さんに相談させていただく予定です。

### 記者

先ほど、お話のありました直売所やスーパーの具体的な名前を教えてください。

### 日建リース工業株式会社 大森事業開発部長

代表的なところで言うと、イオンさん、東急ストアさん、京急ストアさん、マルエツさん、いなげ

やさんなどのスーパーさんに直接おろしております。横須賀や横浜の地元のスーパーさんにも、ぜひ御相談させていただければと思っております。

**記者**

それぞれのエリアの着工時期はどのようになりますか。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

まず、第1エリアは4月からスタートします。第2エリアは6月から着工予定です。そして、第3エリアは10月からと計画しております。

**記者**

市に伺います。元浦賀火葬場跡地は、多分、十数年前に廃止になっていると思います。いつ廃止になり、その後はどうなっていたのでしょうか。ずっと空き地になっていたのか、何かに利用されていたのか、そのあたりを教えてください。また、この土地は、は一とふる農園さんに貸し出すものなのか、無償なのか、スキームを教えてください。

**財務部長**

浦賀火葬場は、平成25年に火葬場の建物の解体を終了いたしました。それ以降は活用されていない状況でした。荒れ地と言いますか、あまりにも草が生えていけば、草刈りをするという程度の管理でした。土地は年間約220万円の賃料でお貸しするお話をさせていただいております。

**記者**

広さはどれくらいになりますか。

**財務部長**

第1エリアと言われている所は工場があった跡地でございます、こちらが900平米、第2エリアが収集中継地と言われる所で850平米、第3エリアが火葬場跡地で2,300平米、合計で4,050平米です。

**記者**

第3エリアが火葬場跡地でよろしいでしょうか。

**財務部長**

はい、そうです。

**記者**

日建リースさんの会社の枕詞のようなものは、どのようなものになりますか。建設資材レンタル業でよろしいでしょうか。

**日建リース工業株式会社 関山代表取締役副社長**

建設資材のレンタル業でございます。

**記者**

パンフレットでは専務になっていますが、関山さんは副社長に昇格されたのですね。

**日建リース工業株式会社 関山代表取締役副社長**

4月1日からです。

**記者**

先ほど、説明がありました工事現場の足場を安全確保のために改良が必要とのことでした。これは法律の立て付けが変わったのでしょうか。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

建設工事で死亡災害の原因として足場からの転落というものが多く、一定数ありましたので、墜落しない、人が落ちないような足場に切り替えていこうという機運が、業界全体で一気に高まりました。私たちは業界1位の会社として、それを新型の足場に切り替えていこうという方針を実行しました。

**記者**

法律が整備されたとかそういうことではないのでしょうか。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

法律が変わったとかそういうことではないです。ただ、公共事業を中心に、先行式足場というものを使わなくてはならなくなり、専属のパーツが作られてきた歴史はあります。それをパーツの付け足しではなく、根本から変えよう、全部仕組みを変えようと、各社が新しい次世代足場へ一気に切り替えました。

**記者**

先行式足場と言われるものがあって。これが古いタイプ。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

ちょっと分かりにくいですが、元々は門型の足場です。それだと上の段に来たときに、左右に何も無いところに人が立つことになるので、何かがあると落ちてしまうこともあります。そこで手すりみたいなものを、先に下から作っていく先行手すりというものが導入されました。ただ、そのように新たなものをパーツで作るより、一気にシステムを変えようということで、次世代足場というものがスタートします。私どもの会社は、ダーウィンという進化する足場というものを自社で設計開発して作りました。したがって、古い門型の足場をなくしていこう、溶かしてしまおうということも当初考えました。

**記者**

次世代足場というのは、手すりがかっちり付いていて、安全が確保されているということですか。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

イメージはそうです。必ず上に行くときには手すりがあります。

**記者**

素材は何でしょうか

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

鉄のパイプです。

**記者**

古いものを廃棄するにはもったいない、何か活かさないかということで、溶かさずにパイプを何か

に活用できるのではないかということでビニールハウスが出てきたとのことでした。そこと障害者がどう結びついてきたのでしょうか。一般の農家向けにハウスを作ることもできたかと思います。なぜここで障害者が出てきたのでしょうか。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

まず、工事で使われていたパイプですので、ものすごく強くて良いハウスができたということが一つのステップとしてあり、これを農家さんに売っていこうとスタートいたしました。また、レンタルができないかということも模索しました。それと同時に、農家の方が高齢化してきている現状があり、何か座って作業ができないかと考えました。一つの足場で5トンに耐えられる強度がありますので、培地を置いていても大丈夫であろうと、砂での栽培などを研究していたところ、体の負担にならない、長く作業ができるということが分かりました。そして、あるB型事業所で、農業をすることで、中々家から出ることができなかった障害者の方が、太陽のもとですごく明るく仕事をしている姿を見ました。それで私たちは障害者と農業と、そして私たちのこの仕組みはすごく親和性が高いと考え、開発していこうということになりました。

**記者**

高床式の作業台という名称でしょうか。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

高床式砂栽培です。砂を入れています。

**記者**

これまで、障害者向けのこのような設備は、あまり競合がいなかったということでしょうか。一般の農家さん向けには、他社からも、かなりたくさんあるサービスがあると思います。障害者向けにはあまりそういうものがないので、参入していこうということなのではないでしょうか。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

一般の農家で行われている、例えばトマトのロックウール栽培や水耕栽培的なものは沢山あるのですがトマトを作るということに特化しすぎていて、作業、作物を変更しにくいということがあります。そこで、高床で、砂であれば、果菜も葉物もできるので、障害者の方に向いていると考えています。砂を使うことからスタートしているので、何かと対比してポジショニングを作っていたということではありません。

**記者**

障害者に向いているとひらめいたのは、何かきっかけがあったのでしょうか。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

砂なので、まず全く手が汚れなくて、また服も汚れませんでした。なんとなく、砂遊びをしているような感覚が楽しいのではないかと、というイメージがあり、私の部下でお子さんが障害者の方に、お子さんの話を伺いました。すごく良いのではないのでしょうか、という反応があったことから、やってみようかということでスタートしました。

**記者**

実際に、その部下のお子さんが、砂遊びを楽しそうにしているのを見て、ということですね。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

はい。そうですね。

#### 記者

ベビーリーフの特徴を、もう1回、説明していただいても良いでしょうか。

#### 日建リース工業株式会社 大森事業開発部長

すごく栽培期間が短いことが特徴です。またベッドに対して一気に種をまくのではなく、毎日種入れをして毎日収穫があります。非常にサイクルが短く、1日で全ての工程ができることが大きな特徴の一つです。さらに、ベビーリーフを大量に生産している農家さんはあまりいません。葉の一つ一つの大きさについて、根元からサイズを合わせて収穫するというところをされているところもありませんでした。グラム当たりの付加価値をほとんど値段が付かないくらい高く設定できます。障害者の方の特性を活かし、かつ高い値段で売ることができます。当時、砂の農業に取り組んでいる鳥取大学さんと色々な作物の共同研究を行いまして、行き着いたのがベビーリーフでした。

#### 記者

今、3県で六つの農園があるとのことでした。包括連携協定を結んでいるのは、横須賀市で何例目になりますか。

#### 日建リース工業株式会社 大森事業開発部長

農園は、埼玉と神奈川、そして宮城県にあります。包括連携協定を結んでいるのは横須賀市だけです。横須賀でどうにかできないかということで、農地探しからずっと一緒に連携して動いていました。埼玉県や他の農園では、私たちが農家さんと直接お話をしていました。当然、応援していただいているのですが、包括連携まではいかなかったと言いますか、そこまでお話をしておりませんでした。今回はこのように実績も出てきており、地域の障害者の福祉の増進にも寄与できるのではないかとということで連携協定の締結となりました。

#### 記者

自治体との包括連携協定は、初めてということですね。

#### 日建リース工業株式会社 大森事業開発部長

はい。初めてです。

#### 記者

関山さんにお聞きします。最初の御説明の中で、横須賀で参入するのに5年かかったとのことでした。参入に時間がかかった理由と、なぜ、横須賀で、この地で開設することになったのかを教えてください。

#### 日建リース工業株式会社 関山代表取締役副社長

まず、5年の歳月を要した理由ですが、やはり土地探しという部分は、やはり非常に大きな時間がかかりました。農業に適する土地、面積、敷地等々もありますし、近隣住民の皆さんとの関係もあります。作っただけでは、意味はございませんので、そこも含めて市の協力等々、下準備を含め、開発用地として着手するまでに5年かかったというところなんです。そこが1番大きなところなんです。もう1点、なぜ横須賀なのかについては、弊社の社員の妻が横須賀に住んでおられて、お子様が障害者とのことで、ぜひ横須賀でもやっていただけないかとお話をいただきました。それが最初のきっかけで、ぜひやりましょと、5年の歳月をかけて横須賀市の方々の協力を得て、このような協定を結ばせていただきました。

**記者**

ありがとうございます。もう一つ、横須賀市に伺います。市内の障害者雇用の状況はどのようになっているのでしょうか。

**障害福祉課長**

市内の障害者雇用の状況については、正確には把握してはおりません。ただ横須賀市では、一定の条件を満たす障害者を雇用している事業者に、障害者雇用奨励金として月3万円をお支払いしています。その奨励金をお支払いしている対象人数は、市内外合わせて、令和5年度の実績で288人です。

**記者**

働く場は足りているのでしょうか。

**障害福祉課長**

働く場については、障害者雇用率は、民間企業ですと、令和6年4月から2.5%になっており、令和8年7月に2.7%になる予定です。現状、横須賀市では、横浜市などと比べて、中々働く場がない状況です。場合によっては、横須賀市の方が、市外の事業所にお勤めしているという状況があります。横須賀市でいうと、障害者の雇用は、まだ足りてないのではないかという認識です。

**記者**

今回の農園は、就労継続支援A型、B型で言うとどちらになるのでしょうか。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

福祉就労ではなく一般就労になります。

**記者**

第1エリアが開園するときに、60人のうち何人くらいの就労を計画されていますか。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

敷地面積の割合からも、10名を計画しております。

**記者**

障害者は、私は、多分、知的障害者であろうと理解しているのですが、障害の程度が軽い人から重い人まで様々だと思います。そのあたりの制限のようなものはありますか。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

まず、週5日、自分で通勤できる方が第1条件になります。そして2番目は、注意事項を聞いて、理解して守れることです。この2点を私たちは大切にしています。

**記者**

分かりました。次に、9月に開園して、この年の売上の予想はできていますか。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

金額的な数字は、現在、持っていません。後ほど、回答します。

**記者**

初年度がこのくらいで、この三つのエリアが全部できたら、このくらいの売り上げになって、利益が上がるとか、最初は赤字だけれども、というものがあれば教えてください。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

はい。かしこまりました。

**記者**

雇用形態は、アルバイトみたいな形になるのでしょうか。また、このビニールハウス1棟を築くのに、この古いタイプの足場は何個使うのでしょうか。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

雇用形態は、時間給契約社員という形で契約をさせていただいております。それと足場の数は、概算ですが農園全体で、この門型の足場を1,200枚くらい使います。

**記者**

ハウスの面積を教えてください。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

第1エリアが280平米、第2エリアが640平米、第3エリアが1,290平米という計画になっております。

**記者**

作業台についても、元々足場を加工して作ったという理解で良いのでしょうか。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

はい、おっしゃるとおりです。

**記者**

それから、かなり良いお給料をちゃんとお支払いできると伺っています。また60名を雇用することによって、かなり面積も大きいし、すごいと思うのですが、実際に農場を運営するノウハウがかなり高くないとできないのではないかと思います。そのあたりのところは、過去の事例から、収量が上がるとか、年に11サイクル回せるとか、かなり積み上げができてきて、良くなってきているというものがあるのでしょうか。あるいは特別な栽培技術みたいなものがあるのでしょうか。

**日建リース工業株式会社 大森事業開発部長**

現在、はとふる農園は、六つの農園を運営しており、今回で七つ目になります。その各農園に、農業の開発をしている担当がおります。なお、一部では、実験的にいちごを栽培するなど、高付加価値の作物も研究していて、このノウハウを積み上げて、展開していくということをしております。今回はベビーリーフからスタートということで、付加価値は、一口のサイズに合わせて、高い値段で売っていくところが1番のポイントかと思っております。また、これからどんどんレベルが上がっていき、ノウハウが積みあがっていき、横の展開も行えるかなと考えております。